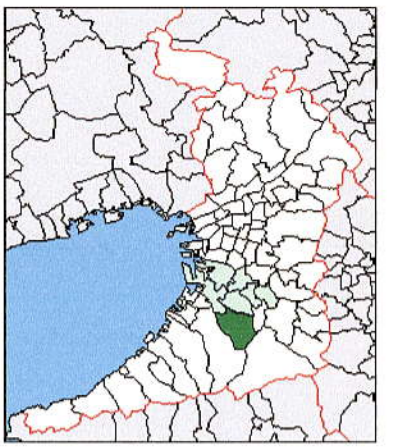
2 南区の現状

2－1 南区の位置

南区は、市域の南端に位置し、西は和泉市、東は大阪狭山市、東南は河内長野市に接しています。
区域は泉北ニュータウンを中心とした市街地とその周辺の農地、集落地、丘陵地などからなっています。

南部には自然や農業とふれあうことができる貴重な自然環境が残されています。泉北ニュータウンには快適な居住環境が広がり、泉北高速鉄道各駅周辺には、多くの商業施設や公共施設が集積し、にぎわいをつくり出しています。



2－2 南区の沿革

昭和３４年（１９５９年）５月に泉ヶ丘町、昭和３６年（１９６１年）３月に福泉町が堺市に編入されて現在の南区域ができあがりました。当時はまだ農村地帯でしたが、昭和３０年代に入り、都市部では地方から流入する人口の増加と核家族化などによる住宅不足の解消が求められました。そのため、大阪府の開発によるみどり豊かな住宅都市をめざした泉北ニュータウンの造成工事が昭和４１年（１９６６年）３月泉ヶ丘地区で始まりました。

泉北ニュータウンは泉ヶ丘地区、栂・美木多地区、光明池地区の三つの丘陵部からなり、各地区は日常の生活エリアがある小学校区から構成され、住区の中心にはマーケットや集会所などがある近隣センターや診療所、中学校、小学校、幼稚園、保育園等が設置されました。
公園、緑地も計画的に配置され、丘陵地の自然を活かした歩行者専用の緑道もできました。

また、南区域は、5世紀頃に須恵器*1の大生産地であったことから多くの窯跡があり、国宝の櫻井神社拝殿や、無形民俗文化財「上神谷のこおどり」などと合わせ、貴重な歴史的・文化的資産を受け継いでいます。

ニュータウン開発前の南区

＊1　須恵器：日本で古墳時代から平安時代まで生産されたやきもののことです。考古学的には、須恵器の出現は古墳時代中期、５世紀初めごろで、大阪府堺市南部、和泉市、岸和田市にまたがる丘陵地帯に分布する陶邑窯跡群は、日本で最初に須恵器生産が始まった場所（窯跡）のひとつとして知られています。